

Iwaino Daichi

いわいの大地

農家と農業委員をつなぐ広報誌

撮影/農業委員 石川誠司

1月

No.35

迎春



菅原隆治 さん(42) ● 川崎地域

リンゴ農家の3代目が目指す職人技

リンゴ農家の3代目に生まれた菅原隆治さんは、高校卒業後に、当時雫石にあった落葉果樹農業研修所で専門の研修を積みましたが、その後は一般企業に就職しました。「一日農業から離れたのはいい経験でしたが、車が好きで、関連の仕事をしてきましたが、その技術は農機具の整備や修理に役立つていますし、違う勉強をしたことが今の仕事にもいろいろ生かしています。」と言います。農業に楽しみをプラスしようと、スピードスプレーヤーはステッカーなどでカスタマイズし、ステレオも設置しました。それまでも手伝いとして農作業はしていたのですが、退職して農業に専念。「自分で全てをやるようになって、面白くなりました。将来の木の形など2〜3年後を見据えて作業する面白さを感じます。ものづくりの職人のようで奥が深いです。」と言います。



現在、1.5畝の農地で千五百本を栽培し、JAへの出荷と道の駅での直接販売を行っています。「JAへの出荷は品質を見たり、指導会で勉強したりできるのがいいところ。直接販売ではお客さんからのおいしいとか、うちのじやないとか駄目などの声を聞くとやりがいを感じます。」とのこと。

取材の日は、川崎小学校の3年生25人が収穫体験に訪れました。春の摘花も体験した子供たちは、菅原さんに教わりながら真っ赤に実ったリンゴを収穫。取れたてのリンゴも味わいました。

どんなところが大変ですか？

リンゴの種を植えたら実ができるの？ どうして斜面に植えているの？ など、子供たちの質問に丁寧に答える菅原さん。リンゴにかける愛情が子供たちにも伝わり、先生の「将来リンゴづくりをやりたい人」との問いかけに、たくさんの小さな手が挙がっていました。

新年にあたり



一関市農業委員会
会長 伊藤公夫

あけましておめでとうございます。

皆様方には輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より農業委員会の活動につきまして、ご理解とご協力をいただき、深く感謝を申し上げます。

本年9月には、当市農業委員会においても、改正農業委員会法による新しい制度に基づく農業委員・農地利用最適化推進委員（推進委員）が選任され、新体制で農地利用の最適化の推進に取り組むこととなります。農業委員・推進委員の選任にあたっては、広く公募いたしますので、この機会に農業委員会の活動に関心をもっていたいただき、推薦、応募いただければ幸いです。

私たち農業委員会は、かけがえない農地を未来の世代に引き継ぐため、農業生産の基盤となる優良農地を守り、その有効活用を進めるなど、今後も農業者を代表する機関として様々な農業の問題に取り組んで参ります。年頭にあたり、今年のご豊作と皆様方のご多幸を祈念し、一層のご支援、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。



特集 地域と農業を守る認定農業者

認定農業者とは、意欲ある農業者が自らの経営を計画的に改善するための「農業経営改善計画」を作成し、市から認定を受けた経営体を行い、経営所得安定対策制度、各種補助事業、資金の融資、農地の集積、農業者年金の保険料補助などさまざまな支援の対象となります。

現在、市内では約870経営体が認定農業者・認定新規就農者として認定されており、農業従

事者の減少や高齢化が続く中、地域農業の担い手として大きな期待が寄せられています。

また、平成28年4月から施行された改正農業委員会法では、農業委員の過半数は原則として認定農業者でなければならないとされ、認定農業者の役割はますます重要となっています。

今号は、地域の担い手として活躍する認定農業者を紹介します。

「息子は継がなかったのですが、孫に期待しています。それまでがんばれるかな」と笑いながら話してくれました。

「息子は継がなかったのですが、孫に期待しています。それまでがんばれるかな」と笑いながら話してくれました。

JAのりんご部会長を務め、160名を束ねている小岩さんは、「果樹栽培は1年でできるものではなく初期投資も大きいため新規就農が難しいのですが、後継者のいない生産者から引き継ぐ形ができないか、部会で体制づくりをしたいと思っています」と言います。

20歳からリンゴの栽培を始めた小岩さんは、現在、狐禅寺藤ノ沢などで8畝のリンゴ栽培のほか、70坪の田を耕作。近年は桃の栽培も始めました。「峠のりんご屋さん」の名前で、産直などで販売している小岩さんのリンゴはおいしいと人気です。



小岩 克宏さん

〔舞川〕

当初認定 H 8.1.1

「将来は、繁殖牛50頭が目標です。5年ぐらいはかかりそうです」と話してくれました。

「将来は、繁殖牛50頭が目標です。5年ぐらいはかかりそうです」と話してくれました。

「効率化を目標にしているので、そのためには機械の導入、規模拡大が必要となります。受けられる補助はできるだけ活用したいのですが、年々条件が厳しくなって認定農業者の資格だけでは難しくなっていますね」と話します。地域の農家から受託する乾燥作業は、持ち込まれる稲の水分をはかって個別対応してきましたが、昨年乾燥施設を整備したことで、より効率的にできるようになりました。「まだちょっと足りない設備があるので、もう少し充実させたいんです」と言います。

14年間勤めた会社を退職し、平成20年から農業に専念した石川さん。繁殖牛37頭の飼育のほか、主食用米8畝余り、WCS 2.5畝を耕作しています。



石川 英希さん

〔藤沢〕

当初認定 H 21.2.1



一関市認定農業者の会会長 佐藤和幸さん(花泉)の声

認定農業者の会は地域ごとに支部があり、それぞれ独自の活動を行っています。市全体では、年に2回9月と2月に研修会を開催し、情報交換や交流を行っています。作目の境を越えて話し合える場にしたと思っています。会話の中から刺激を受けて経営改善につながればと毎回願っています。

定年退職後に認定農業者となった方もいますが、親元での就農に支援があれば、もっと新規就農者が増えるのではないのでしょうか。

市内の認定農業者・認定新規就農者

	認定農業者	認定新規就農者
一関	236	2
花泉	235	4
大東	98	8
千厩	60	4
東山	22	2
室根	44	13
川崎	33	1
藤沢	100	3
計	828	37

H29.11.30現在

認定農業者は、性別はもろろん、年齢や経営規模の大小に関わらず申請することができます。手続きや農業経営改善計画の作成にあたっては、各地区担当の農業経営指導員が協力しますので、地域の農業委員または市農政課・各支所産業経済課にご相談ください。



【平成29年度】
**岩手県農業委員会大会が
開催される**



平成29年11月10日、都南文化会館で開催された平成29年度岩手県農業委員会大会に伊藤会長ほか委員17名が参加しました。

大会表彰では、永年勤続農業委員として当委員会から1名、農業委員会等活動（活動記録部門・農業者年金部門・全国農業新聞部門）で5名の委員と当委員会が表彰されました。また、いわて平泉農業協同組合の佐藤鉦一代表理事組合長が農政功労者として表彰されました。

大会では、「農地利用最適化推進活動の充実強化に関する決議」「農業施策の充実に関する要請決議」「新しい農業委員会体制の強化及び農業委員会活動の充実強化に関する申し合わせ決議」の議案を決議し、大会宣言を採択しました。

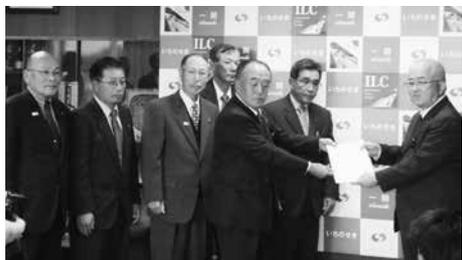
大会に引き続き、活動事例研修が行われ、茨城県茨木町・岩手町・山田町の各農業委員会及び北上市の農地利用最適化への取り組みを学びました。

**市長へ「農政課題に
かかる意見書」を提出**

平成29年11月6日、農業委員会から勝部修市長に対し、「平成29年度農政課題にかかる意見書」を提出しました。当日は委員会を代表し伊藤公夫会長、永島幸一会長職務代理人、石川誠司農政専門委員長、千葉正紀同副委員長、渋谷皓農地専門委員長、佐藤繁同副委員長が出席し、岩淵敏郎農林部長、小野寺英幸農林部次長兼農政課長の同席の下、市長に意見書を手渡しました。

意見書は、農政課題に対する農業委員の意見要望を、①放射能汚染対策、②担い手・経営対策、③農地利用集積対策、④遊休農地の発生防止・解消対策、⑤活力ある地域振興に向けた対策、⑥食の安全安心、食育の充実、⑦農業委員会の体制整備の7項目に取りまとめたものです。

市長からは、放射能汚染対策は当市の最優先課題であり、今後も手を緩めることなく早期解決に努めること、林業振興について、ILC関連施設は地元材を使い田園風景を壊さない配置を目指していることなどの話がありました。



佐々木 久吉 委員



農業委員として27年9月より地域の皆様のご指導ご協力を頂きながら活動を行ってきました。各集落の農地を訪問し、改めて合併した一関市の広さに実践活動の大変さを実感しました。想像以上に多発している遊休農地や空き家を目の当りにして感じた事は、跡継ぎが同居していない事により身の周りの管理ができていない実態でした。これからの暮らしで、高齢夫婦だけの生活や建物の老朽化など、日常生活の管理が心配されますが、介護施設に入居するにも条件や費用負担などの問題があり、大変厳しい老後であるように感じます。しかし、我々団塊世代が若者と共に集落で活動していければ将来像が見えてくると思われれます。

現代農業は、農地中間管理機構との連携が必要とされていますが、中山間地域の現状では対応できないとのこと。また、基盤整備事業に関しても、集落説明会等を経て申請時より10年越しになっており、今後集落での集積集約をまとめることが困難です。こうした中山間地域で農業法人設立にかわる案として、数年前にJAとの業務提携等の提案を要請した経過もありますが、いまだ現実的ではありません。担い手がない状況で現状を維持するために作業委託ができるようなシステムの検討が必要ではないでしょうか。

今の農業補助制度は毎年のように変更され、農家経営には不安が募る状況ですが、例えば大手商社との連携による農産物マーケットの確立やコスト利益追求、物流化など、高収益化で生産者が自立経営できる環境を作ることも必要と思われれます。

最後に、本年もご意見ご指導を賜りながら努めて参りますので、宜しくお願い申し上げます。

シリーズ ③ **農業委員会法改正**

**一関市の農業委員・推進委員
の定数は何名？**

**農業委員は 24名
推進委員は 36名**

一関市の場合、平成30年9月までに新しい制度の農業委員と推進委員が選任されます。

農業委員の定数は24名で、農地利用最適化推進委員（推進委員）については以下のとおり地域毎に定数が定められています。

地域名	一関	花泉	大東	千厩	東山	室根	川崎	藤沢
定数	8	7	5	4	3	3	2	4

農業委員及び推進委員の推薦・公募は、約1か月間で、平成30年5月頃を予定しています

- ① 農業委員と推進委員の推薦・公募は同時に行う予定です
- ② 農業委員及び推進委員両方に推薦・応募できます
- ③ 推進委員は、複数の区域について同時に推薦・応募できます
- ④ 推薦・応募の要件など詳しい内容は、後日お知らせします

農業者年金で明るい将来計画!

大東町菅原の菅原清さん(39)は家族で水稲1畝、トマト16畝、果樹70畝、産直用野菜として、にんにく、じゃがいもなど幅広く農業経営をしています。なかでも清さんはトマトを主に担当しており、毎日おいしいトマト作りに励んでいます。

清さんは昨年の10月に農業者年金に加入しました。農業者年金は、20代の頃から知っていましたが、当時は経営が不安定であり、保険料の支払いに不安があったことや制度の詳しい中身を知る機会がなかったため、加入には至りませんでした。しかし、詳しい年金の仕組みやメリットの説明を受けたことで、認定農業者で青色申告者でもあった清さんは保険料の一部が国の補助対象となる政策支援に魅力を感じ加入しました。

清さんは、「39歳までに加入しないと保険料が国の補助



若いうちに 将来の備えを

【大東地域】菅原 清さん

農業者年金のお問い合わせは
農業委員会またはお近くのJA窓口へ
電話 21-8692 (一関市農業委員会)

対象にならないと知らなかったの、補助を受けられるギリギリのタイミングで加入できて良かったです。80歳までの保証があるのも良い、声をかけていただいた農業委員さんには感謝しています。夫婦で安心して生活していくために、近いうちに妻も農業者年金に加入させようと思えます。」と話しました。

清さんは農閑期である冬には、地元若者を集めて立ち上げた園芸ハウス建設組合の活動として、高齢になって農業をやめた人からハウスを買い取り、経営規模を拡大したい担い手のためにハウスの建設作業を請け負ったりするなど、一関市の農業の活性化のために日々様々な活動をしています。これからの一関市の農業を引っ張っていく担い手として、今後の活躍が楽しみです。

農業者年金まとめ知照

次の5項目のうち、いずれかに該当する場合は、**農業経営を再開したとみなされ、経営移讓年金が支給停止になる場合がありますので、ご注意ください。**

経営移讓年金の受給権者(本人)が

- ① 農業所得の納税申告をする
- ② 農業を営む法人の構成員になる
- ③ 後継者に貸している農地等の返還を受けたり、売却・転用・貸付けをする
- ④ 経営所得安定対策等交付金の申請をする
- ⑤ 農業共済に加入する

農地賃借料 情報

平成28年1月から同年12月までに締結(公告)された賃借料における賃借料水準(10a当たり)は、右のとおりとなっています。

① 田(水稲)の部(10a当たり)				
	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	8,931円	14,500円	2,680円	2,284
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	7,737円	13,334円	2,513円	531
② 畑の部(10a当たり)				
	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	2,060円	3,666円	747円	374
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	2,433円	3,500円	1,000円	38

備考

- 地域ごとに契約額が極端に高額、低額(平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの)な実例をあらかじめ削除し全体集計しています。
- 賃借料が無料の使用貸借契約もありますが実例として含めていません。
- 賃借契約の際は、対象農地の収穫見込み量や形状、隣接する道水路等の状況を考慮し両者で協議の上決定してください。

「いわいの大地」編集委員会
編集委員長 伊藤 勉
副編集委員長 佐藤 修
編集委員
芳賀 武郎 遠藤 勝幸
菅原 豊一 皆川 清喜
藤野 眞喜 佐藤 圭一



編集委員 佐藤 修

近年は、各地で地球温暖化とみられる異常気象により、豪雨や台風などの自然災害にみまわれ、甚大な被害が発生しております。

新しい年が災害のない穏やかな豊作の年であることを願いたいものです。

本年9月には、農業委員会法改正により新制度に基づく農業委員、推進委員が選任され、一関市農業委員会が新たな船出をむかえる年でもあります。

平成30年は節目の年、昨年秋に市場デビューした、岩手県の最高級オリジナルブランド米「金色の風」が高い市場評価を得て、当地方の稲作農家の皆さんが元氣を取り戻す起爆剤となつてほしいものです。

明けておめでとうございませう。

農家の皆様には、日頃より一関市農業委員会だより「いわいの大地」をご愛読いただき、また取材の際は快くご協力いただきまして、ありがとうございます。

編集後記

